

“憐れみを持つこと” — **G1653 eleeo** — 苦しんでいる者を助けるために、憐れみを示すこと
道端での叫び——私たちが憐れんでください——そして主は必ず立ち止まられる

“憐れみ” — **G3628 oiktirmos** — 憐れみ、同情、幾重にも増し加えられた慈しみ
憐れみの父。神の憐れみによって私たちは自分の体をささげる

“腸” — **G4698 splagchnon** — 内なる部分 — 最も深い感情の座
ヘブライ語の「胎」を語源とする語がギリシャ語に受け継がれた場合:最も深い内なる場所で感じられる憐れみ

“同情に動かされる” — **G4697 splagchnizomai** — はらわたを動かされる
イエスが癒し、清め、そして放蕩息子のもとへ走り寄る前に感じられたことを表す、福音書の言葉

“贖罪所” — **G2435 hilasterion** — 贖罪の場所 — 箱の金の蓋
ヘブル九章五節はそれを贖罪所と呼び、ローマ三章二十五節は同じ語をイエスに用いている——贖罪所として立てられた

“宥め” — **G2434 hilasmos** — 贖い(あがない)そのもの — 憐れみの代価が完全に払われたこと
ヨハネの言葉:彼こそ私たちの罪のための宥めの供え物である — しかも私たちの罪のためだけでなく

ヘブライ語キーワード

“慈悲” — **H2617 chesed** — 契約的な慈しみ、確固たる憐れみ
基礎の詩篇の言葉——二十六回、主のいつくしみは永遠に絶えることがない

“慈しみ” — **H7356 racham** — 同情、あわれみ。同じ語は他の箇所では「胎」と訳されている
より大きな者からより小さな者への、母の深みから運ばれる憐れみ——母の深さから来る愛

“憐れむ” — **H7355 racham** — 深く愛する、憐れむ、慈しむ
神が乳を与える母親がやめることのできないことについて語り、神はそれ以上のことをすると言われる

“恵み深くある” — **H2603 chanan** — 自分より下位の者に対し、親切心をもってかがみ込む、身をかがめる
「そして主は待たれる、それは彼が恵みを施すためである」——祭司の祝福の言葉

“贖罪所” — **H3727 kapporeth** — 契約の箱の金の覆いのふた。kaphar(覆う、贖いをする)より
神はあわれみを単なる概念とせず、御自身が築かれた場所とされ、そこで血の上に人と出会われた。

“赦す” — **H5375 nasa** — 持ち上げる、担う、運び去る
赦しは人から重荷を取り除く。やぎはすべての彼らの咎を運び去った。

I. 探し方 — 見つけ方

(私自身の思い——すべての歩みは低いところから始まる。赤ん坊はまず両手両膝で這い、それから両足で立つようになる。誰も生まれつき憐れみ深く、憐れみを既に受け尽くしている者などいない。憐れみはまず見出されねばならない。そして、これらの証人たちはその場所を示している。それは神のもとへ登って得るものではない——神ご自身が下って来られ、あえて待っておられ、それを与えるためであり、その人がまだ遠くにいるうちから走り出してくださるのだ。低く始め、小さく始め、そして呼び求めよ。)

A. マタイによる福音書 9:27 そこから進んで行かれると、ふたりの盲人が、「ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」と叫びながら、イエスについてきた。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G1653 eleeo

二人の盲人が彼に従い、叫んで言った——**ダビデの子よ、私たちが憐れんでください。**

B. マタイによる福音書 15:22 すると、そこへ、その地方出のカナンの女が出てきて、「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」と言って叫びつづけた。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G1653 eleeo

カナンの女は叫んだ → 主よ、ダビデの子よ、我を憐れみたまえ。

(私自身の思い——盲人たちは彼を見ることができず、あの女もイスラエル人ではなかった。それでも二人とも同じ門が開かれているのを見出した。憐れみは、それを求める権利を持つことによってではなく、それを呼び求めることによって見出されるのである。)

C. 出エジプト記 33:19 主は言われた、「わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう。わたしは恵もうとする者を恵み、あわれもうとする者をあわれむ」。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2603 chanan ・ ■ H7355 racham

わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ → わたしは恵もうとする者を恵み、あわれもうとする者をあわれむ。

D. イザヤ書 30:18 それゆえ、主は待っていて、あなたがたに恵を施される。それゆえ、主は立ちあがって、あなたがたをあわれまれる。主は公平の神でいらせられる。すべて主を待ち望む者はさいわいである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2603 chanan ・ ■ H7355 racham

主は待っていて、あなたがたに恵を施される → すべて主を待ち望む者はさいわいである。

(私個人の思い——主の待ちは、主が差し控えておられるのではない。主は目的をもって待たれる、恵みを施すためである。それは待つ二者で終わる。憐れみを与えようと待たれる神と、それを受けようと待つ人である。もしあなたがまだそれを見出していないなら、あなたは見過ごされたのではない——あなたは待たれていたのである。)

E. 民数記 6:24 「願わくは主があなたを祝福し、あなたを守られるように。(25) 願わくは主がみ顔をもってあなたを照し、あなたを恵まれるように。(26) 願わくは主がみ顔をあなたに向け、あなたに平安を賜わるように」。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2603 chanan

願わくは主がみ顔をもってあなたを照し、あなたを恵まれるように → あなたに平安を賜わるように」。

F. 詩篇 145:9 主はすべてのものに恵みがあり、そのあわれみはすべてのみわざの上にあります。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H7356 racham

主はすべてのものに恵みがあり → そのあわれみはすべてのみわざの上にあります。

G. イザヤ書 49:15 「女がその乳のみ子を忘れて、その腹の子を、あわれまないようなことがあるうか。たとい彼らが忘れるようなことがあっても、わたしは、あなたを忘れることはない。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H7355 racham

女は乳飲み子を忘れることができようか? → 彼女たちは忘れるかもしれない = されど我は汝を忘れじ。

(私個人の思い —— ここでの「憐れむ」はラーカム(H7355, have compassion)であり、レヘム、すなわち「胎(たい)」と深く結びついた言葉である。神は人間の愛のうちで最も深いもの——母とその胎の子との愛——のかたわらに、ご自身の憐れみを置き、そのご自身の憐れみはなおそれよりも深いのだと言われる。憐れみが自分を探し求めていることをまだ信じられない者は、ただこの一つのことを思い描けばよい——忘れることのできない愛を。)

H. エレミヤ書 31:20 主は言われる、エフライムはわたしの愛する子、わたしの喜ぶ子であろうか。わたしは彼について語るごとに、なお彼を忘れることができない。それゆえ、わたしの心は彼をしたっている。わたしは必ず彼をあわれむ。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H7355 racham

私のはらわたしは彼のために激しく痛む--私は必ず彼をあわれむ、と主は言われる。

I. 列王紀上 3:26 すると生きている子の母である女は、その子のために心がやけるようになって、王に言った、「ああ、わが主よ、生きている子を彼女に与えてください。決してそれを殺さないでください」。しかしほかのひとりと言った、「それをわたしのものにも、あなたのものにもしないで、分けてください」。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H7356 racham

彼女の心は自分の子に対して痛んだ → 生きている子を彼女に与えよ、決して殺してはならない。

J. ルカによる福音書 15:20 そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4697 splanchnizomai

まだ遠く離れていたのに、父はその子を見て、憐れに思い、走り寄った。

(私自身の思い——ここで言うことが終わり、見出されることが始まる。息子はまだ遠く離れていた——まだ道の途中で、まだ洗われておらず、まだ遠い国の匂いをまとっていた——そして父が先に彼を見つけ、彼のもとへ走り寄った。見出されるために、たどり着かなければならないわけではない。あなたがまだ道の途中にいる間にも、憐れみは走り出て、あなたを迎える。)

II. 歩む——それを得たなら、それをどう用いるか

(私個人の思い——その子は今、自分の足で立っている。憐れみは見出され、それは日々、保ち続け、その中を生きていかねばならないものである。神が私たちのために保たれる憐れみは、契約の憐れみであることに注目したい——誓われ、確かで、決して取り消されることのないものである。そして神が私たちに歩むよう求められる憐れみも、同じ種類のものである。一度だけ感じる感情ではなく、絶えず与え続けるいつくしみなのである。)

A. 申命記 7:9 それゆえあなたは知らなければならない。あなたの神、主は神にましまし、真実の神にましまして、彼を愛し、その命令を守る者には、契約を守り、恵みを施して千代に及び、

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2617 chesed

真実の神 → 契約を守り、恵みを施して千代に及び。

B. 列王紀上 8:23 言った、「イスラエルの神、主よ、上の天にも、下の地にも、あなたのような神はありません。あなたは契約を守られ、心をつくしてあなたの前に歩むあなたのしもべらに、いつくしみを施し、

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2617 chesed

あなたのような神はほかにありません。 → あなたはしもべたちと契約と憐れみを守られます。

C. 詩篇 89:28 わたしはとこしえに、わがいつくしみを彼のために保ち、わが契約は彼のために堅く立つ。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2617 chesed

我はわが憐れみをとこしえに保つ → わが契約は堅く立たん。

D. 詩篇 89:33 しかし、わたしはわがいつくしみを彼から取り去ることなく、わがまことにそむくことはない。(34) わたしはわが契約を破ることなく、わがくちびるから出た言葉を変えることはない。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2617 chesed

私のいたつくしみを、ことごとくは取り去らない。私の契約を破ることはしない。

E. イザヤ書 54:10 山は移り、丘は動いても、わがいつくしみはあなたから移ることなく、平安を与えるわが契約は動くことがない」とあなたをあわれまれる主は言われる。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2617 chesed ・ ■ H7355 racham

山は移り → わがいつくしみはあなたから移ることなく」とあなたをあわれまれる主は言われる。

(私の個人的な思い——憐れみを示された者は、揺るがない地面の上を歩むよう求められている。山は去りゆく。しかし、その慈しみは去らない。それこそが、日々憐れみのうちを歩むことを学びながら、人が立つ土台である。)

F. 詩篇 85:10 いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互に口づけし、

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2617 chesed

いつくしみと、まこととは共に会い → 義と平和とは互に口づけし。

G. 詩篇 25:10 主のすべての道はその契約とあかしとを守る者にはいつくしみであり、まことである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2617 chesed

主のすべての道は、その契約と証しを守る者にとっては、慈悲と真実である。

H. 詩篇 103:13 父がその子供をあわれむように、主はおのれを恐れる者をあわれまれる。

父がその子供をあわれむように → 主はおのれを恐れる者をあわれまれる。

I. ルカによる福音書 6:36 あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G3629 oiktirmon

あなたがたの父なる神が慈悲深いように → あなたがたも慈悲深い者となれ。

(私自身の考え—これが一言で言い表された、憐れみの中を歩むことの全体である。あなたは自分独自の憐れみを考え出すのではなく、すでに示された型の中を歩むのである。あなたの父が憐れみ深いように、あなたもそうあるべきである。)

J. コロサイ人への手紙 3:12 だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔和、寛容を身に着けなさい。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4698 splanchnon ・ ■ G3628 oiktirmos

だから、あなたがたは、神に選ばれた者 → 愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔和、寛容を身に着けなさい。

K. ピリピ人への手紙 2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4698 splanchnon ・ ■ G3628 oiktirmos

キリストにある勧め ⇒ 愛の勧め ⇒ 御霊の交わり ⇒ 慈悲と憐れみ。

L. ヨハネの第一の手紙 3:17 世の富を持っていながら、兄弟が困っているのを見て、あわれみの心を閉じる者には、どうして神の愛が、彼のうちにあるのか。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4698 splanchnon

あわれみの心を兄弟に閉じる者 → どうして神の愛が、彼のうちにあるのか。

(私の個人的な思い——憐れみに歩むとは、単に内に温めておく感情ではなく、必要のある兄弟に向かって開けておく戸である。その戸を閉じることは、神の愛はどこにあるのかと問うことにほかならない。歩みはまさにここで、日々の平凡な日々の中で、あなたの目の前にいるその人に対して、試されるのである。)

III. 競走を走る — 神の軍隊の兵士のようにそれに従う

(私自身の思い——今、歩みは競走となり、憐れみは重圧の中で働かされる。兵士は自分ひとりのために戦うのではない。彼は共にいる者たちのために戦うのであり、彼が戦う戦いはそもそも自分の力で勝ち取るものではない——それは主のものである。困難のもとで示される憐れみもまさにそうである。それは自分自身の力によって与えられるものではなく、また、ひとりで与えられるものでもない。)

A. ローマ人への手紙 12:1 兄弟 たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G3628 oiktirmos

神の憐れみによって → あなたがたの体を生ける供え物としてささげなさい。

B. ローマ人への手紙 6:13 また、あなたがたの肢体を不義の武器として罪にささげてはならない。むしろ、死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささげ、自分の肢体を義の武器として神にささげるがよい。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G3936 paristemi

自分自身を神にささげよ —— あなたがたの肢体を義の器として神にささげよ。

(私の個人的な思い——兵士はその体を命令に委ねる。憐れみを受けた者は、その体を憐れみの器として委ねる。かつて罪のために用いられたものが、今や神の憐れみによって、神のご用のために差し出されるのである。)

C. サムエル記上 17:47 またこの全会衆も、主は救を施すのに、つるぎとやりを用いられないことを知るであろう。この戦いは主の戦いであって、主がわれわれの手におまえたちを渡されるからである」。

戦いは主のものである → そして主はあなたがたをわれらの手に渡されるであろう。

D. ネヘミヤ記 4:14 わたしは見めぐり、立って尊い人々、つかさたち、およびその他の民らに言った、「あなたがたは彼らを恐れてはならない。大いなる恐るべき主を覚え、あなたがたの兄弟、むすこ、娘、妻および家のために戦いなさい」。

主は大いなる、また恐るべき方であることを覚えよ。あなたの兄弟のために戦え。

(私個人の思い——ネヘミヤにおける兵士の戦いは、兄弟、息子、娘、妻、家々のため——すなわち土地のためではなく、人々のためであった。兵士のように戦い抜かれる憐れみもまた、人々のためのものである。困窮している兄弟のため、助けを求めて叫ぶ敵のため、あなたに何の権利も持たない見知らぬ者のために。)

E. マタイによる福音書 14:14 イエスは舟から上がって、大ぜいの群衆をごらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4697 splagchnizomai

イエスは大群衆を見られた → 深く憐れみを覚えられた → 彼らの病人をいやされた。

F. マルコによる福音書 1:41 イエスは深くあわれみ、手を伸ばして彼にさわり、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4697 splagchnizomai

憐れみに動かされて → 手を伸ばして彼に触れ → わたしの心だ、清くなれ。

G. ルカによる福音書 7:13 主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、「泣かないでいなさい」と言われた。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4697 splagchnizomai

主は彼女を見て → 彼女を憐れんで → 泣くな。

(私個人の思い——これら三つの癒やしは、どれもイエスにとって代償のないものではなかった。イエスは誰も触れようとしないうちに触れ、誰も助けようとしなかったやもめに声をかけるために葬列を止められた。兵士のように憐れみに服従するとは、通り過ぎる方が楽な、まさにその人々の方へと向かって行くことなのだ。)

H. ヤコブの手紙 5:11 忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いている。また、主が彼になさったことの結末を見て、主がいかに慈愛とあわれみとに富

んだかたであるかが、わかるはずである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4184 polusplagchnos ・ ■ G3629 oiktirmon

あなたがたは主の結末を見た。すなわち、主は慈悲深く、あわれみに富んでおられる。

独りではない——二人は一人にまさる

伝道の書 4:9 ふたりはひとりにまさる。彼らはその労苦によって良い報いを得るからである。(10) すなわち彼らが倒れる時には、そのひとりがその友を助け起す。しかしひとりであって、その倒れる時、これを助け起す者のない者はわざわざいである。(11) またふたりが一緒に寝れば暖かである。ひとりだけで、どうして暖かになり得ようか。(12) 人がもし、そのひとりを攻め撃ったなら、ふたりで、それに当るであろう。三つよりの綱はたやすくは切れない。

二人は一人よりも良い。彼らが倒れる時、一人がその仲間を助け起こすからである。

ガラテヤ人への手紙 6:2 互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。

互に重荷を負い合いなさい。そうすれば→あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。

ヤコブの手紙 5:16 だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。

互いに罪を告白し合い、互いのために祈りなさい——そうすれば、あなたがたは癒されます。

テサロニケ人への第一の手紙 5:11 だから、あなたがたは、今しているように、互に慰め合い、相互の徳を高めなさい。

だから、あなたがたは、今しているように、互に慰め合い。

(私自身の思い——兵士はひとりで戦うのではなく、あわれみもまた、ひとりで担うべきものではない。互いの重荷を負い合うことは、あわれみを示すひとつの姿である——それは、肩を差し入れたあわれみなのだ。〔複数の聖句を結び合わせたものであり、これ単独で述べている一節はない〕——これらの聖句のすべてに「あわれみ」という言葉が記されているわけではないが、そのパターンは明らかである。ふたりは、ひとりにまさる。重荷は分かち合うために与えられている。そして、互いのために祈ることは癒しをもたらす。)

IV. ゴール — 憐れみは永遠に絶えることがない

(私の個人的な思い——どの競走にも終わりがある。しかし、この競走の終わりは壁ではなく、競走が終わった後も続いていく憐れみである。憐れみを二十六回も名指しで呼んだあの詩篇は、いつか使い尽くされてしまう憐れみを名指しているのではない——憐れみそのものが、世代から世代へと続いていくものなのだ。)

A. 詩篇 100:5 主は恵みふかく、そのいつくしみはかぎりなく、そのまことはよろず代に及ぶからである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2617 chesed

主は恵みふかく→そのいつくしみはかぎりなく+そのまことはよろず代に及ぶからである。

B. 詩篇 89:1 主よ、わたしはとこしえにあなたのいつくしみを歌い、わたしの口をもってあなたのまことをよろずよに告げ知らせます。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2617 chesed

主よ、わたしはとこしえにあなたのいつくしみを歌い。

C. ルカによる福音書 1:50 そのあわれみは、代々限りなく主をかしこみ恐れる者に及びます。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G1656 eleos

主の憐れみは、主を恐れる者に代々限りなく及ぶ。

D. ルカによる福音書 1:54 主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、(55) わたしたちの父祖 アブラハムとその子孫とを とこしえにあわれむと約束なさったとおりに」。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G1656 eleos

主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました→わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とを とこしえにあわれむと約束なさったとおりに」。

(私個人の思い——詩篇をルカと並べて読むとき、書全体を貫く一つの声が聞こえてくる。主の憐れみはとこしえに絶えることがなく(詩篇100:5)、主の憐れみは主を畏れる者に代々に及ぶ(ルカ1:50)。ゴールはその憐れみを終わらせるものではなく——ただ、その憐れみがすでにその人をどれほど遠くまで運んできたか、そしてこれからどれほど遠くまで運んでいくのかを示すだけなのだ。)

E. ヘブル人への手紙 4:16 だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく 恵みの御座に近づこうではないか。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G1656 eleos

大胆に恵みの御座に來たれ —— あわれみを受け、また時にかないて助けとなる恵みを見出さんために。

F. ヨハネの第一の手紙 2:2 彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G2434 hilasmos

彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である → 全世界の罪のためである。

G. ヨハネの第一の手紙 4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G2434 hilasmos

わたしたちが神を愛したのではなく → わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

H. ルカによる福音書 1:78 これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み、(79) 暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導くであろう」。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4698 splagchnon ・ ■ G1656 eleos

私たちの神の深き憐れみによりて、暁の光、上より我らを訪れたり。

I. 詩篇 32:1 そのとががゆるされ、その罪がおおい消される者はさいわいである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H5375 nasa ・ ■ H3680 kacah

そのとががゆるされ、その罪がおおい消される者はさいわいである。

J. ピリピ人への手紙 2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。(6) キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、(7) かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、(8) おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

キリスト・イエスにあった心をあなたがたのうちに抱きなさい —— 彼は自らを低くして、死に至るまで従順であられた。

(私自身の思い——他者に示される憐れみは、それを示す者にとって決して無償ではない。それは父にとってはその御子を代価とし、御子にとっては十字架の上で注ぎ出されたその命そのものを代価とした。この競走の終着点に至ることができたのは、彼が先にそれを走り抜けられたからにほかならない。私たちが担うよう求められている憐れみは、冠の形に整えられる前に、まず彼の十字架の形に整えられているのである。)

二人の口

サムエル記下 22:26 忠実な者には、あなたは忠実な者となり、欠けた所のない人には、あなたは欠けた所のない者となり、

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2623 chasid ・ ■ H2616 chasad

慈しみある者には、あなたは慈しみを示される —— 主が彼を救われた日に歌われたもの(2 Samuel 22:1)。

詩篇 18:25 あなたはいつくしみある者には、いつくしみある者となり、欠けたところのない者には、欠けたところのない者となり、

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2623 chasid ・ ■ H2616 chasad

憐れみ深い者には、汝も憐れみ深くあり給う —— さらに歌われ、伶長のために(詩篇第十八篇、表題)。

コリント人への第二の手紙 13:1 わたしは今、三度目にあなたがたの所に行こうとしている。すべての事からは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G3144 martus

二人または三人の証人の口によって、すべての言葉が確定される。

(私の個人的な思い——同じ歌が二度歌われる。一度は救出の日に、そしてもう一度は楽長に向けて。慈しみ深い人に対して、神はご自身を慈しみ深く示される。この競走を走り終えた人は、神が慈しみに慈しみをもって応えられることを学ぶ——それは慈しみが功績によって得られるからではなく、慈しみ深い人が引き込まれていく型だからである。)

影と実現

地面に映る影を思い浮かべてください。その形は見えますが、形だけでは何がその影を作っているのかは分かりません——ある物かもしれませんし、同じくらいの大きさの別の物かもしれません。影だけを見ている限り、推測することしかできないのです。真の光が実物そのものを示してくれるまで、その影は謎のままです。そのとき初めて影を振り返ってみると、それがずっとその実物の形であったことが分かるのです。

それが旧約聖書の型が示しているものである。それらは真の影であり、真の実体によって確かに形づくられたものである——「これらは来るべき事の影であるが、体はキリストのものである」(コロサイ2:17)。しかし影は「そのものの姿」ではない(ヘブル10:1)ので、誰も影だけからその全き真理を読み取ることはできなかった。キリストが来られたとき、光がその実体を示した——そして今、私たちは影を振り返り、それが最初からずっと誰の姿を担っていたのかを見るのである。

Shadow 出エジプト記 25:17 また純金の贖罪所を造らなければならない。長さは二キュビト半、幅は一キュビト半。(18) また二つの金のケルビムを造らなければならない。これを打物造りとし、贖罪所の両端に置かなければならない。(19) 一つのケルブをこの端に、一つのケルブをかの端に造り、ケルビムを贖罪所の一部としてその両端に造らなければならない。(20) ケルビムは翼を高く伸べ、その翼をもって贖罪所をおおい、顔は互にむかい合い、ケルビムの顔は贖罪所にむかわなければならない。(21) あなたは贖罪所を箱の上に置き、箱の中にはわたしが授けるあかしの板を納めなければならない。(22) その所でわたしはあなたに会い、贖罪所の上から、あかしの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの人々のために、わたしが命じようとするもろもろの事を、あなたに語るであろう。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H3727 kapporeth

あなたは純金であわれみの座を造るべし。→そこで我はあなたに会い、あなたと語らうであろう。

Shadow レビ記 16:14 彼はまたその雄牛の血を取り、指をもってこれを贖罪所の東の面に注ぎ、また指をもってその血を贖罪所の前に、七たび注がなければならない。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H3727 kapporeth

血は贖罪所の上に、また贖罪所の前に、七たび注がれた。

Shadow レビ記 16:22 こうしてやぎは彼らのもろもろの悪をになって、人里離れた地に行くであろう。すなわち、そのやぎを荒野に送らなければならない。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H5375 nasa

ヤギは彼らのすべての咎を負って——住む者のない地へ。

Shadow ヘブル人への手紙 9:5 箱の上には栄光に輝くケルビムがあつて、贖罪所をおおっていた。これらのことについては、今ここで、いちいち述べることができない。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G2435 hilasterion

栄光のケルビムが施座を覆っていた。

Fulfillment ローマ人への手紙 3:24 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。(25) 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが、

原語キー / **STRONG'** S: ■ G2435 hilasterion

神はこのキリスト・イエスを、その血による信仰によってなだめの供え物として立てられた。

Fulfillment ヘブル人への手紙 9:11 しかしキリストがすでに現れた祝福の大祭司としてこられたとき、手で造られず、この世界に属さない、さらに大きく、完全な幕屋をとおり、(12) かつ、やぎと子牛との血

によらず、ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされたのである。

彼はご自身の血によって、ただ一度入り、→私たちのために永遠の贖いを成し遂げられた。

Fulfillment ホセア書 2:23 わたしはわたしのために彼を地にまき、あわれまれぬ者をあわれみ、わたしの民でない者に向かって、『あなたはわたしの民である』と言い、彼は『あなたはわたしの神である』と言う」。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H7355 racham ・ ■ G1653 eleeo

民ではなかった者 → 今は神の民である。憐れみを受けなかった者 → 今は憐れみを受けている。

(私自身の思い——贖罪蓋は場所であったが、宥めは一人の人格である。山羊は罪を宿営の外に運び出したが、キリストは十字架の上で、都の外でそれを負われた。ローマ人への書3章25節は、贖罪蓋そのものを指すギリシャ語を、イエスご自身に結びつけている。その影はそれなりに真実であったが、今や光がその実体を示し、それは終始、彼の形であったことが分かる。)

閉会

ユダの手紙 1:21 神の愛の中に自らを保ち、永遠のいのちを目あてとして、わたしたちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G1656 eleos

私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みつつ —— 永遠のいのちに至る。

哀歌 3:22 主のいつくしみは絶えることがなく、そのあわれみは尽きることがない。(23) これは朝ごとに新しく、あなたの真実は大きい。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H2617 chesed ・ ■ H7356 racham

滅び失せないのは、その憐れみが尽きないゆえである → 朝ごとに新しく + あなたの真実は大きい。

(私自身の思い——この歩みの全体を一行にまとめてみる。憐れみは低みに見出される。まだ遠くにいるうちに叫び求めることによって。神が恵みを与えようと、あえて待っておられるからだ。憐れみは日々歩まれるものであり、山々も動かすことのできない契約のように守られる。憐れみは兵士の力のように差し出され、必要な兄弟のために戦い取られ、それを与える者に代価を払わせる。ちょうど御父が御子を代価として払われたように。そして憐れみはゴールで止まらない——それは永遠であり、朝ごとに新しく、なお待ち望まれ、永遠のいのちにまで至る。主はあなたに叫び求めることを教え、道であなたを迎えに走り出され、あなたをゴールまで導いてくださる。そして主の憐れみは、その道のりの一度たりとも絶えることはなかった。)

練習クイズ

- ルカ15:20 — まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、そして:
 - 兄息子を呼びに行った
哀れに思って、走り寄った
 - 心を頑なにした
- イザヤ書30章18節 — 「それゆえ、主は待っていて、あなたがたに:
主はあなたがたに恵を施される
 - 異邦人の中であがめられる
 - 契約を忘れる
- 申命記7:9 — 真実の神にましまして、彼を愛し、その命令を守る者には、契約を守り、恵みを施して:
 - 千代
 - 子孫たち彼を呼ぶすべての者
- ルカ6:36 — 「あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。」
 - 憐れみ深い者は憐れみを受ける
あなたがたの父も慈悲深い
 - それは律法に書いてある
- ローマ人への手紙12:1 — 兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、ささげなさい。

- a) 賛美の理にかなった犠牲
- 生きた、聖なる、神に喜ばれる供え物
- c) 火による献げ物

6. ローマ3:25 — 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。

- a) 義
- b) 恵み
- c) 血

7. 詩篇 100:5 — 主は恵みふかく、そのいつくしみはかぎりなく、そのまことはよろず代に及ぶからである。

- すべての代に及ぶ
- b) 永遠から永遠まで
- c) とこしえにシオンにおいて

解答:1-b、2-a、3-a、4-b、5-b、6-c、7-a

このスタディの分岐

影がどのように光をもたらすか。年に一度、血が振りかけられた贖いの座(レビ記16:14)は一つの場所であった。ローマ3:25は、その同じ言葉を一人の人格に結びつける。かつて神が一人の祭司と、年に一度だけお会いになったその場所は、今やすべての信者が大胆に近づくことのできる御座となっている(ヘブル4:16)。

新しい契約がそれをさらに詳しく説き明かす様:先祖たちに誓われた契約の恵み(申命記7:9;詩篇89:28)は、永遠に続き、代々に及ぶその同じ恵み(詩篇100:5;ルカ1:50)である——イスラエルに誓われたことは成し遂げられ、世界に対して開かれたまま保たれている。

言葉がいかに重要であるかについて:ヘブル語のラーカム(H7355/H7356、あわれむ、優しい憐れみ)は、胎(子宮)を表す言葉と同根であり、ギリシャ語のスプランクニゾマイ(G4697、あわれみに動かされる)は、その同じ姿を新しい言語へと運び入れたものである——手が動く前に、最も深い内なる所で感じられる憐れみである。

これがあなたにどう当てはまるか: 盲人たちとカナンの女のように来て、これを求めて叫び求めよ (マタイ9:27; 15:22)。あなたの兄弟に対してその道を歩み、彼に対して自分の憐れみを閉ざすことをするな (ヨハネ第一3:17)。そして憐れみがあなたに何かを費やさせる時、それがまず主にもっと多くを費やさせたことを思い出せ (ピリピ2:7-8)。

永遠のために意味すること:私たちの主イエス・キリストのあわれみは待ち望まれており、永遠のいのちに至る(ユダの書21)、そしてそれは絶えることがない——主のあわれみは朝ごとに新しい(哀歌3:22-23)、最後の一人に至るまで。

余談: 血を贖罪所の上とその前に七度振りかけること (レビ記16:14) は、贖罪日全体——二匹の山羊、罪科を荒野に運び去るはなしやぎ、そして年に一度、幕の内に入る大祭司——に通じている (レビ記16章; ヘブル書9章)。

→可能な啓示: 律法の板は箱の中に置かれ、贖罪所はその上にあり、神は贖罪所の上から語られた、律法そのものからではなく。神は人と会うために律法を取り除かれたのではなく、それを血で覆い、そこで人と会われた。それ以来、憐れみは会見の場所であり、今もそうである。(私個人の考え)

救われるためには何をしなければならないか

「救われるためには何をすべきか」という私たちの聖書研究をご覧ください

SOURCES & CREDITS

Scripture: Kougo (Colloquial) (Public Domain (1955 口語訳聖書 — Japan Bible Society's own copyright page confirms the copyright protection period has ended; see registry/JAPANESE_LEGAL_PATH.md. Moral/integrity rights are preserved under Japanese law, so the text is rendered verbatim only, never altered -- pipeline.VERBATIM_LANGS.)) — a redistributable edition, looked up exactly and never machine-translated.

Alternate chapter/verse numbering reconciled with STEP Bible TVTMS (CC BY 4.0).

Strong's numbering & original-language data: OpenScriptures Hebrew Bible (CC BY 4.0); STEP Bible.org — TAHOT/TAGNT/TBESH/TBESG (CC BY 4.0); Robinson-Pierpont Byzantine Majority Text (Public Domain); Strong's dictionary, 1890 (Public Domain).

Typography: Google Noto fonts (SIL Open Font License 1.1).

© SEE MORE JESUS • wanttoseemore.com — shared under Creative Commons Attribution 4.0 (CC BY 4.0).